

登録コード	A3590378	開講年度	2026				
授業科目	科学英語				担当教員	城田 徹央	
英文授業名	Scientific English						
単位数	1	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Aカリ，2 0 2 1 Aカリ，2 0 2 0 Aカリ，2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前加わむ対象】専門的な知識や研究能力を修得している				森林生態学に関する基礎的な知識を有し、応用生態学としての造林学を理解できる。		
	【2022年度以前加わむ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している				森林生態学に関する基礎的な知識を有し、応用生態学としてのアメリカ合衆国の造林学を理解できる。		
	2 0 2 6 A3 編（24A），2 0 2 5 A3 編（23A），2 0 2 4 Aカリ，2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前加わむ対象】専門的な知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				森林生態学に関する基礎的な知識を有し、応用生態学としてのアメリカ合衆国の造林学を理解できる。		
	【2024年度以前加わむ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。				森林生態学に関する基礎的な知識を有し、応用生態学としてのアメリカ合衆国の造林学を理解でき、さらに日本の造林学との違いや共通性を統合的に把握できる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	英語学術論文を読解し，その内容をプレゼンテーション形式で説明する。						
(5)授業計画	(A) 英文読解とプレゼンテーション 「The Practice of Silviculture: Applied Forest Ecology, 10th Edition」の輪読を行います。1人あたり10ページ程度を目安とします。訳はGoogleドキュメントで共有し，誤読があれば指導教員が指摘します。なお月に1度プレゼンテーションの機会を設けるので，内容を分かりやすく紹介してください。 最終週にアンケートを実施します。						
(6)自主学習の指針	自主学習は必要不可欠です。興味を持って前向きに取り組んでください。						
(7)成績評価の基準	・ 論文内容の理解 ・ 関連文献の把握 ・ プレゼンテーション能力						
(8)事前事後学習の内容	・ 該当論文の訳 ・ 関連する論文・テキストの理解						
(9)テストやレポートの予定	必要に応じてテストやレポートを求めます。						
(10)成績評価の方法	授業計画に挙げた内容に対する取り組みの成果を総合的に判断して評価します。締め切りを遵守できない場合不可とします。 評価基準： S：90-100，A：80-89，B：70-79，C：60-69，D：59以下						
(11)質問、相談への対応および連絡先	shirota@shinshu-u.ac.jp 面談が必要な場合はアポイントメントをとってからにしてください。						
(12)履修上の注意	対象学生：森林・環境共生学コース3年生．研究室配属後の履修になります．開講形式は研究室ごとに異なるので注意してください．						
【教科書】	The Practice of Silviculture: Applied Forest Ecology, 10th Edition Mark S. Ashton, Matthew J. Kelty 購入の必要はありません。						
【参考書】	指定しない						